

## 第33回 研修会

## 「電子書籍をめぐる課題と事例 ～ KinoDen, LibrariE を中心に～」

株式会社紀伊國屋書店 デジタル情報営業部 荒川 郁美



## 1. はじめに

本稿では、電子書籍サービスの現状について、弊社の提供する電子書籍サービスKinoDen、LibrariEを例にとり、サービスの現状や全国の大学図書館での導入事例を紹介する。電子書籍をめぐる図書館が抱える課題の解決や、利活用のためのアイデアの一助となればと思う。

## 2. コロナ禍以降の変化、課題整理

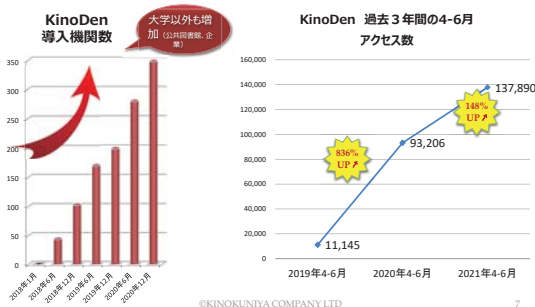
2020年3月以降、新型コロナウイルス感染症流行の影響により、電子書籍を新たに導入する法人が急増した。2019年度に新たにKinoDenを利用開始した図書館は約90館であったが、2020年度は150館へと大幅に伸長した。この内訳は企業図書館、公共図書館なども含まれるが、ほとんどが大学図書館である。

3年間で比較した結果、2019年の4月～6月から2020年の同期間では上図の通り8倍もの開きがあった。利用はその後も増え続けており、2021年の同期間の閲覧数は前年比146%と、電子書籍の利用は各図書館で定着してきたと考えている。

しかし、電子書籍の導入が進んだ一方で、図書館業務や利用者サービスとしての運営や導入における問題点、課題が浮き彫りになってきた図書館も多いのではないだろうか。次の図は、2021年3月に実施したKinoDen導入機関に向けたアンケートにおいて、「導入・運営上の課題」についてヒアリングしたものである。

## 2-2. コロナ禍での変化

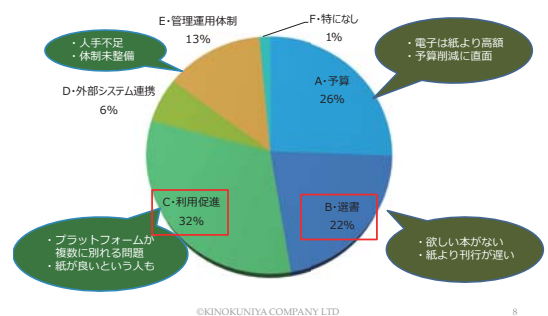
・コロナ禍・オンライン授業・リモートワーク等の普及等を背景に導入、利用が伸長



また、既に電子書籍を導入していた図書館の電子書籍利用状況にも大きな変化があった。大学の新年度にあたる4月～6月の3カ月間のKinoDen本文閲覧実績を過去

## 2-3. 電子図書館導入・運営上の課題

2021年3月実施 KinoDen導入機関様アンケート項目 (電子書籍サービスの導入・運用の課題)



利用促進が課題という回答が最も多く、「従来は館内へのポスターを掲示やチラシの設置などを行ってきたが、コロナ禍でオンライン主体の広報となり、どの程度学生に届いているのか不安に感じる」「複数の電子書籍プラットフォームを導入しているため、広報が難しい」といった意見が挙げられた。また、選書上の課題につい

でも「欲しい本が電子書籍になっていない」「大学向けのラインナップが十分でない」等のコメントが多く寄せられ、利用促進や選書、限られた予算内で電子書籍を運営していくことについて困難を感じている図書館が多いことが分かってきた。

本稿ではいくつかの大学図書館の利用促進事例をピックアップし、またラインナップ充実に向けた紀伊國屋書店の取り組みについて紹介する。

### 3. 紀伊國屋書店の電子書籍サービス：概要

まず、紀伊國屋書店が図書館へ提供している電子書籍サービスであるKinoDen（キノデン）、LibrariE（ライブラリエ）の二つについて概要を説明する。

和書は學術書・一般書に大きく分けることが出来るが、それぞれで求められる機能や利用形態が異なるため、各コンテンツに最適な機能、ライセンス形態を有したそれぞれのプラットフォームに分けて提供している。いずれも教育機関では初期導入費用・維持費用がかからず、コンテンツの代金のみで運用できる。

#### 3-1. 紀伊國屋書店の提供する電子図書館

・學術書/一般書の各性質上、求められる機能や利用形態が異なるため、それぞれに最適な機能、ライセンス形態を有したプラットフォームをご提供しています。和書プラットフォームは、KinoDenとLibrariEの2サービスを展開しています。



コンテンツ	専門書・學術書・教養書 約50,000点	小説・実用書・ガイドブック 約82,000点
利用者の閲覧行動	学習、研究、調べもの (必要な箇所だけ一時的に閲覧)	読書、娯楽、児童 (一定期間占有してじっくり読む)
基本的な利用方法	ウェブブラウザでの閲覧 ※利用者は閲覧時のみ占有	ウェブブラウザでの貸出・返却 ※利用者は一定期間占有
ライセンス形式	買切(一回の支払・期限無)	利用期限、貸出回数制限あり *買切も一部あり

©KINOKUNIYA COMPANY LTD.

10

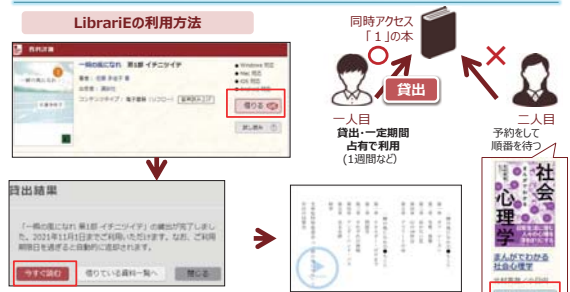
#### ●LibrariE

LibrariEは、KADOKAWA・講談社・紀伊國屋書店をはじめとする5社の合弁会社である株式会社日本電子図書館サービス（JDLS）が運営する、一般書を中心とした電子書籍サービスである。

利用者が書籍を一定期間占有したいと思う一般書（小説等）に適した貸出・返却方式であり、各自ID・パスワードでログイン後、「借りる」ボタンを押して貸出を行う。誰かが借りている場合は予約して順番を待つ必要がある。

LibrariEの最大の特長は、文芸書や児童書、実用書を中心とした豊富な一般書ラインナップだが、コロナ禍以前より大学図書館での導入が当初想定よりも多く、現在約130館の大学図書館がLibrariEを利用している。紙の本では提供しない小説や実用書などを電子書籍で提供

#### 3-2. LibrariE概要-利用方法



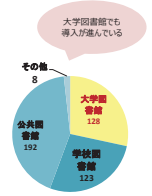
- ・書籍を一定期間占有してじっくり利用したい一般書(小説等)に適した貸出・返却方式
- ・1冊の書籍を同時に貸出できる人数は1名\*まで。誰かが借りている本は予約して順番を待つ
- ・期限が来たら自動で返却される。予約者がいなければ延長も可能

11

#### 3-2. 大学におけるLibrariE

LibrariE 2021年 大学図書館 貸出人気タイトル

NO.	題名	著者名	出版社
1	かがみの孤城	辻村 深月 著	ポプラ社
2	ライオンのおやつ	小川 糸 著	ポプラ社
3	わたしの悪い嘘	長瀬 喜伴 著	ポプラ社
4	銀のない夢を見る	辻村 深月 著	文芸春秋
5	就職四季報 2021年版	東洋経済新報社 編	東洋経済新報社
6	楽園地帯はなごききか	吉野 源三郎 原作	マガジンスピリット
7	学び後結果に変えても120のこと	榎沢 宏規 著	サンクチュアリ出版
8	学生時代にやらなくていい20のこと	朝井 利乃 著	文芸春秋
9	あはれの娘女(角川e文庫)	原田 マル 著	KADOKAWA
10	大人の読書が大全	福地 孝 著	KADOKAWA
11	15歳からはじめよ EPUB版	安宅 和人 著	英治出版
12	勉強が好きな電子書籍版	入江 久雄 マンガイラスト	旺文社
13	まんがでわかる地味力を鍛える 電子版	藤谷 功 著	東洋経済新報社
14	ラマ	小野寺 史宣 著	ポプラ社
15	沢村英一 上 脚臨篇(文芸文庫)	鹿島 茂 著	文芸春秋
16	スチキを捨てたい子どもたち(ポプラ新書)	山根 寿一 著	ポプラ社
17	世界一美味い手抜きごはん	はかへくろりスリ 著	KADOKAWA
18	フリアア(文春のe文庫)	山本 文雄 著	文芸春秋
19	時をかける少女	桐井 リヨ 著	文芸春秋
20	はなとちやめられない自己分析ワークシート	青柳 宏 著	KADOKAWA



- ・紙の本では提供しない方針の小説や実用書などを電子書籍で展開するパターンが多い
- ・総合大学だけでなく、医学系などの単科大学でも導入が多くなってきている
- ・娯楽本だけでなく就活本なども人気

13

する、学生の読書推進を目的に導入する等のケースが増えているのだ。LibrariEの大学貸出ランキングを見ると、本屋大賞を受賞した「かがみの孤城」「ライオンのおやつ」等をはじめとした文芸書がよく読まれている。

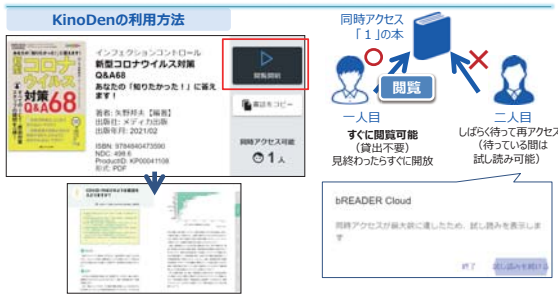
LibrariEのライセンス形式は、例外もあるがほとんどのコンテンツが利用期限や貸出回数制限のある有期限型であり、例えば2年間・52回貸出制限のあるコンテンツを購入した場合には、2年間経過するか、その前に52回貸出がなされるとその時点で利用権限が消滅する仕組みだ。この条件により、ベストセラーや人気のコンテンツを出版社より広く収集することが出来ている。

#### ●KinoDen

KinoDenは、紀伊國屋書店が2018年1月から提供を開始した學術書・専門書を中心とした電子書籍サービスである。コンテンツはほぼ全て買切型であり、現在5万点以上のコンテンツを提供している。

利用の方法は貸出方式ではなく閲覧方式で、閲覧開始ボタンを押すとすぐにコンテンツが表示される為、必要な箇所を部分的に参照することの多い専門書に適している。ビューワを閉じるか、15分間何も操作が無いと自動でセッションアウトされる仕組みだ。

### 3-3. KinoDen概要-利用方法



- ・必要な箇所を部分的にすぐ参照したい、専門書や事典に適した**閲覧方式（貸出不要）**
- ・貸出処理不要で、見たい箇所をすぐに閲覧
- ・1冊の書籍を同時に閲覧できる人数は1名\*まで。アクセスが重なった場合は試し読みに移行  
※15分間無操作で自動セッションアウトされるため、一人の人が長期間占有することは殆どありません。

14

### 3-3. KinoDen概要-特長

**KinoDenの特長**

ブラウザ

- 未購入タイトルも含めた全文横断検索機能**
  - ・利用者が知りたいキーワードで、書名だけでなく書籍の本文まで検索できます。
  - ・利用者に思わぬ書籍の新しい発見をもたらします。
- 部分的な印刷・PDFダウンロード（出版者に許諾されたコンテンツのみ）**
  - ・許諾された範囲、コンテンツを印刷ダウンロード可能。学習や研究に役立ちます。
- アクセシビリティ対応**
  - ・文字拡大・自動音声読み上げ（EPUBファイル・許諾コンテンツのみ）に対応。読み上げ速度は調節可能



15

KinoDenの大きな特長のひとつは、未購入タイトルも含めた全文横断検索機能である。検索対象が書誌だけでなく本文のテキストデータ内まで及ぶため、人の手では発見できない本を見つけ出すことが可能となる。この点はレファレンスにも利用が出来ると高く評価されている。

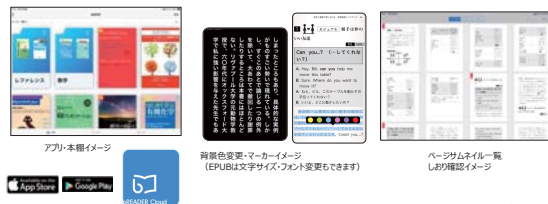
また、許諾の範囲で印刷・PDF部分ダウンロードも可能であり、本文の文字拡大・音声読み上げなどアクセ

### 3-3. KinoDen概要-特長

**KinoDenの特長**

アプリ

- ブラウザ以外に、アプリでも読むことができます**
  - ・アプリに1冊全部をダウンロード\*できるため、紙の本を読むようにページめくりも快適です。\*アプリで閲覧する際も同時アクセス数のチェックを行っています。
  - ・背景色変更、文字拡大などのアクセシビリティ機能も備えています。
- 学習に便利な、本棚、しおり、マーカー、メモ機能**
  - ・アプリ利用により、図書館の本に書き込みが可能になります。
  - ・ビジネス書から専門書、語学学習書などのニーズを見込みます。



16

シビリティ面も強化している。

もう一つの大きなポイントはアプリでも読める点であり、気に入った本をMy本棚へ登録しておく、都度ブラウザ上で検索・閲覧しなくともアプリから直接かつ快適に本を読むことが出来る。また、書き込み、しおり、マーカー付与などが可能であり、学習にも利用できるなどの利便性が学生に好評だ。実際に複数のサービスをトライアル利用した結果、アプリの使い勝手からKinoDenを導入した大学もある。

### 4. 導入事例、利用促進事例の紹介

冒頭で触れた通り、利用促進の方法は電子書籍サービスの運営上図書館にとって大きな課題の一つである。そこで、いくつかの大学で実際に行っている電子書籍の利用促進事例を紹介したい。

#### ●法政大学 市ヶ谷図書館（KinoDen事例）

#### 4-2. 導入事例①-1 法政大学（KinoDen）

##### ■多方面からの工夫を凝らした利用促進

- 1) 導入の背景**
  - ・和書が充実している+スマホアプリから利用できる点が、**図書館が考える「学習支援ツール」に合致**  
⇒KinoDen導入へ。結果、非来館型サービスの展開に多岐に役立った。
- 2) 利用促進**
  - ・学内にKinoDen説明ブースを設置
  - ・試験サービス&リクエスト機能の活用（利用者目線の選書を主体に）
  - ・KinoDen「本棚機能」の活用 ・動画でのKinoDen利用方法説明
  - ・工夫を凝らしたTwitterやデジタルサイネージでの広報活動など多岐にわたり実施



KinoDenの本棚機能



←KinoDen説明ブースの様子

20

法政大学市ヶ谷図書館では多方面から様々な利用促進を行っている。学内にKinoDenの説明ブースを設置し、訪れた学生へ利用方法をレクチャーしたり、利用方法を解り易く纏めた動画を図書館のHP上にアップしたりといった比較的大がかりなものだけでなく、日々のTwitterでの広報も工夫を凝らしており、「画像をつける」「発信時間を学生のスマホ利用コアタイムに絞る」といったポイントを押さえて投稿することを心掛けている。結果、アクセス数は2020年度、前年度の3倍にまで伸長したとのことだ。

##### ●熊本学園大学（KinoDen事例）

熊本学園大学では、所定の期間KinoDenのほぼ全てのコンテンツが、各コンテンツにつき5分間限定で読み放題になる「KinoDenDDA」とリクエスト機能を利用し、学生選書会を実施している。選書期間に合わせて学生向け説明会を実施し、電子書籍の利用方法やリクエストの方法をレクチャーしたところ、終了後にはアクセス数・

## 4-2. 導入事例③熊本学園大学 (KinoDen)

### ■電子書籍体験会&学生選書会の実施

- ・KinoDenDDA (全文試し読みサービス) を活用した学生選書会のタイミングに合わせて説明会
- ・ラーニングCOMMONスペースにホワイトボード、PC2台準備し、KinoDenの基本的な操作説明、リクエスト、My本棚・アプリの登録について約20分ほどレクチャー
- ・体験会終了後はアクセス数、リクエスト数も増えており、一定の効果あり



©KINOKUNIYA COMPANY LTD.

リクエスト数ともに増加し、一定の効果があった。

### ●金城学院大学 (LibrariE事例)

## 4-2. 導入事例⑤金城学院大学 (LibrariE)

### ■学生ボランティア「LiLian」による電子book選書会

- ・コロナ禍において例年店頭で行っていた選書会が出来なくなった
- ⇒LibrariE選書システムのIDを一時的にLiLianメンバーのみへ配布し、オンライン選書
- ・店頭選書の場合はブラウジングしているうちに求めているものが見つかるが、電子書籍の場合は適切なキーワードを入力して検索しなければならないのが煩雑だったとの声。
- 一方で、中身をじっくり確認して選ぶことが出来良かった、との意見もあり。



©KINOKUNIYA COMPANY LTD.

金城学院大学では、LibrariEの選書発注用システムの選書用IDを期間限定で学生ボランティアへ配布し、学生選書に役立てている。選書したコンテンツはQRコード付で図書館にも配架し、利用促進を図っている。コロナ禍において、書店店頭で選書ツアーが出来なくなり、電子書籍で選書会をする大学は増えている。中身をじっくり見ながら選ぶことが出来るというメリットもあるようだ。

## 5. 搭載コンテンツ拡大への取り組み

冒頭で触れた通り、選書・利用可能な電子書籍コンテンツの拡大が喫緊の課題である。図書館が求めるコンテンツ、例えば紙での利用率が高い書籍は電子化されていないことも多いのが現状だ。しかし、それには出版社側の事情が大きく影響している。電子化が実現できない理由は、コストや許諾の問題、電子書籍担当の人員の不足、ビジネス上の優先順位の問題など、コンテンツや出版社

によって実に様々であり、簡単な解決策があるわけではない。現在、紀伊國屋書店では、KinoDenの搭載コンテンツ拡大に向けて、以下のような取り組みを行っている。

- 1) 電子化リクエストフォームの設置
- 2) 出版社交渉の強化 (人員増強等)
- 3) 新たな販売モデルの開発 (サブスクリプション等)
- 4) 取引出版社への定期的な情報発信
- 5) 電子書籍取次会社の活用 (直取引以外のルート)

1) で図書館から電子化リクエストを受領したコンテンツについては、一点一点出版社へ交渉を行い、実際搭載に繋がるケースもある。また、5) 電子取次の活用を2021年12月末から開始し、直取引では搭載が難しい出版社のコンテンツの入稿が実現できるようになった。その結果、コンテンツ数は以下の通り順調に推移している。

### ●KinoDen 搭載出版社、コンテンツ数の推移

2019年	: 130社	22,069タイトル
(増加数)	: +53社	+7,240タイトル
2020年	: 158社	31,343タイトル
(増加数)	: +28社	+9,274タイトル
2021年	: 234社	50,807タイトル
(増加数)	: +76社	+19,464タイトル

今後も搭載コンテンツ拡充に向け、出版社や図書館と協力しながら様々な施策を行っていきたくと考えている。

## 6. 今後の展望など

電子書籍サービスはまだ発展途上の段階であり、今後も機能面を含め様々な改善を図っていく必要がある。KinoDenは図書館からのアンケートを参考に、機能面での改修事項を決めて2021年8月にビューワを大幅に更新した。初めて電子書籍を利用する人も、スマートフォンでもPCでも解り易く使いやすい画面に改善した。また、2020年12月に音声読み上げ機能を付与し、EPUBリフロー形式で許諾されたコンテンツについては音声読み上げが出来るようになった。PC Talkerや点字ディスプレイなどの外部ツールを利用すれば、EPUBリフロー形式に加えてテキスト情報付のPDFも音声読み上げ・点訳ができる。今後はアプリでも音声読み上げが可能となるよう開発を進めている。その他、一度学内でアカウントを作成しなくても学外からアクセス出来る新たな認証の仕組みや、独自コンテンツのアップロード機能に加え、オーディオブックの搭載などを順次開始する。今後も図書館の課題や要望を詳しく聞きながら改善に取り組んでいく方針だ。

LibrariEは2022年4月から新たなサブスクリプション

モデルの販売を開始する。特定ジャンル100冊程度（10万～30万）をパッケージとして販売し、期間内読み放題・同時アクセス無制限で提供する。まずは児童書のセットを配信する予定だが、大学向けのセットもこれから企画・提供していく。また、筑摩書房や小学館の新書が多数入稿され、学生向けのラインナップも強化している。今後もLibrariEでしか提供できないコンテンツを広く収集・提供していく予定である。

## 第33回 研修会事例報告①

# 埼玉大学における電子書籍の導入

埼玉大学 図書館情報課 伴 徹

埼玉大学図書館における電子書籍は、国立大学法人化の初年度である平成16（2004）年度に「OCLC NetLibrary」（現EBSCO eBooks）200タイトルの購入から始まりました。その主な目的は、大学院経済科学研究科に東京サテライトキャンパスを教育・研究の拠点とする社会人向けの課程が設置されたことを受け、さいたま市のキャンパスには通学しない院生に専門書を提供することでした。

平成18（2006）年度には、Springer eBook Collectionの購入を開始しました。国立大学図書館協会（JANUL）コンソーシアム向けに提案されたもので、現在のJUSTICE向け提案と同様、Springer刊行図書をSubject×Copyright Yearが購入最低単位となっており、本学で購入したのは「Behavioral Science」「Business and Economics」「Humanities, Social Sciences and Law」「Physics & Astronomy」の4 Subjectでした（分野の選択はおそらく予算との兼ね合いによるもの）。

これらの導入は試行的なもので、本格的な電子書籍サービスには直結しませんでした。要因はいろいろ考えられますが、スマートフォンの普及前に電子デバイスで図書を通読する慣習がなかったこと、CATP形式の書誌データが提供がなく当時の当館の図書館システムでは書誌データを取り込めず、OPACで検索できなかったこと等が挙げられます。

Springer eBook Collectionについては半ば惰性的に継続購入していましたが、円安の進行によって維持困難になり2013年分をもって購入中止となり、以後は散発的に参考図書類を購入するくらいになりました。

その後も積極的に電子書籍サービスを進めるきっかけもないまま数年経たところでコロナ禍に遭遇することとなりました。2020年4月の最初の緊急事態宣言時に埼玉大学では学生入構禁止・図書館緊急閉館を4月9日～6月

## 7. まとめ

コロナ禍により電子書籍の導入機関数や利用率が増え、コンテンツ数も大幅に拡大するなど、電子シフトが更に加速してきた一方で、図書館の運営上はまだ課題が多いのが現状だ。今後は図書館、ベンダー、出版社で更に協力を深め、試行錯誤しながらも課題に取り組んでいく必要があると考えている。

9日の間実施しました。この間、授業は原則としてリモートで実施され、制限を解いた後も、ハイブリッド方式で開講する等、学生がキャンパスに来なくても学修できる環境を可能なかぎり整備する方向となりました。



図書館としては、過去の試行的導入において全く検討していなかった、和書を主とする学習用図書を中心に電子書籍サービスをを進める必要が生じたわけですが、令和2年度前期の段階ではコロナ対応予算の配分もない状況でしたので、配分済の経常予算の中で購入選定を進めていた「シラバス図書」（シラバスに「参考書」として掲載された図書を原則として2冊購入）について、電子版を優先的に購入する対象とすることから始めることになりました。

目的が学外からの利用ですので、導入する電子書籍はリモートアクセスに対応していることが前提となりますが、本学には学生用VPNサービス等もありませんので、「学認」対応していることを必須要件としました。また、試行的導入時の失敗を踏まえ、OPACに個々の書誌データを表示することも必要と考え（対象がシラバス図書なので、Webシラバスからリンクさせる必要もありました）、CATP形式の書誌データ提供が可能なことも要件に加えました。

和書を提供するサービスでこの要件を満たすのは、EBSCO eBooks、KinoDen、Maruzen eBook Library（以下「MeL」）（サービス名順）の3つでした。

この3サービスのタイトル価格には有意差がありませんでしたので、3サービスの中で他のサービスと重複しないタイトルを少しずつ購入して比較検討してみまし

た。その結果、もっとも差がついたのはCATPデータの品質で、記述・統制語系項目とも総合目録データベース並みの品質でそのまま使えるのはMeLだけで、他はOPACで使うには大幅に修正する必要を認めたので、複数サービスから提供されるタイトルは、手間のかからないMeLを優先して購入するようになりました。MeLは和書のサービスとして先行していて収録点数も多いため、購入点数には差がつく結果となりました(2020年度の和書購入点数は、EBSCO:14、KinoDen:4、MeL:55)。利用者からみてもプラットフォームは統一されている方が望ましいですから、比較検討のうえで1サービ

スに集中するのは自然なことと受け止めています。

2021年度は電子書籍優先を前提として予算配分を受けましたが、今度は、新刊の時点で購入できる電子書籍はまだまだ少ないことを実感しているところです。アグリゲーターがいつまで主流たりうるか、あるいは、今後の大学と学生の関わり方は中長期的にどうなるか、など今後の変化も見つつその時々最適なサービスを模索していくことになりそうです。

## 第33回 研修会事例報告②

# SALA 第33回研修会 文教大学事例報告

文教大学 学術情報部 図書館課 畔上 幸子

LibrariEは小説・英語多読本・実用書などの一般書を中心に搭載するクラウド型の電子図書館サービスである。認証方法はID/PM認証、利用方法は貸出・返却方式で、利用者は一定期間資料を占有して読むことができる。本学における電子書籍の事例報告として、LibrariE導入の経緯・広報と、コロナ禍での電子書籍の活用について紹介する。

### 1. 導入の経緯

LibrariEは2019年4月に、「文教サポーターズ募金」という寄付制度で集められた寄附金を利用して導入した。

「文教サポーターズ募金」とは、文教大学学園の就学支援・教育振興の推進を目的とした寄付制度で、寄附者が寄附対象の学校種を選べるのが特徴である。学校種「大学」宛に集まった寄附金を図書館で活用することになり、全キャンパスで平等に利用可能な電子書籍を、中でもID/PM認証で学外から簡単に利用でき、学部に関わらず学生が楽しめる一般書を多く搭載しているLibrariEを導入することになった。

現在閲覧可能な1,284コンテンツのうち、800コンテンツ程度を「文教サポーターズ募金」による寄附金で購入した。

### 2. 広報

LibrariEの導入にあたって、2019年度の春には積極的な広報を行った。その一例を下記に紹介する。

#### ①ポスター & ポップの設置

コンテンツのタイトル・書影・QRコードを掲載したポスターやポップを数種類作成。電子書籍導入

のお知らせではなく、コンテンツ自体を紹介することで、どのようなコンテンツがあるのかが一目で分かると共にQRコードからすぐにアクセスでき、利用への心理的なハードルを下げることを狙った。

#### ②学食の紙ナプキンで宣伝

電子書籍サービス開始のお知らせを記載した紙ナプキンを作成し、学食に設置。電子書籍を読む際に一番利用するのはスマートフォンであると考え、学生が学内で一番スマホを使いそうな場所、更には絶対に手に取るもの、と連想していった結果、学食の紙ナプキンを宣伝ツールにすることを思いついた。



### 3. コロナ禍での活用

新型コロナウイルスが大流行し、緊急事態宣言が発令された2020年4月、本学では図書館の臨時閉館を余儀なくされ、学生の図書館利用のニーズに非来館型のサービスで対応することとなった。

図書館HP上にコロナ対応特設ページを作成し、インターネット上で利用可能なデータベースや電子書籍を紹介したほか、コロナ禍での臨時サービスとして、郵送貸出サービスを行った。郵送貸出サービスでは、紙媒体の資料への貸出希望に対して、電子書籍化されているものは本学未所蔵のものであっても新規に購入し、電子書籍での提供に切り替えた。電子書籍で提供することで、郵送の手間が削減でき、速やかに資料を提供でき、更には

利用の競合を気にしなくて良く、図書館・利用者双方にとってメリットがあった。

コロナ禍のように図書館に來られない状況下であっても、電子書籍によってある程度のサービスを利用者に届けることができた。また、今回非来館型のサービスしか受けられない状況になって初めて電子書籍サービスを利用した学生も一定数いたと考えられ、電子書籍の認知度が上がったと思われる。

#### 4. 今後の課題

本学ではLibrariE以外にも複数の電子書籍プラットフォームを契約しており、それぞれにログインが必要、かつログイン方法が異なっている。その複雑さが、利用者の活発な電子書籍利用の妨げになっているものと考えられる。

電子書籍が有効に活用されるよう、利用のハードルを下げるようなシンプルで分かりやすい利用案内が必要であり、現在最適な方法を模索中である。



## 図書館と県民のつどい埼玉2021 報告

### 「SALA 加盟図書館所蔵資料展示会」

「図書館と県民のつどい埼玉2021」は、埼玉県図書館協会、埼玉県教育委員会、埼玉県学校図書館協議会、埼玉県高等学校図書館研究会主催で、県内の市町村立図書館、県立図書館、高校図書館、大学図書館などが協力して開催する、県内最大級の図書館イベントである。15回目を迎える今年は、オンラインで開催した。Live配信は令和3年12月11日（土）・12日（日）両日行った。

「図書館と県民のつどい埼玉」は、本に興味をもっていただきたい、という思いから始まった。今年は、作家伊吹有喜さんや絵本作家鈴木まもるさんの講演ほか、中

学生ビブリオバトル、司書が語るLiveイベント、司書が魅せるWEB展示など、さまざまなイベントを盛沢山でお届けした。



SALA加盟館からは以下の5機関が展示に参加して、各機関の趣向をこらした展示の写真画像や動画を、令和4年1月10（月）まで配信を行いご覧いただいた。

各機関のテーマは、以下のとおり。

	機関名	テーマ
1	国立女性教育会館	SDGsゴール5 『ジェンダー平等』を学んでみよう 子ども向け図書案内
2	城西大学	学生アドバイザー vs 図書館職員 ~水田記念図書館活動紹介~
3	聖学院大学	新聞でタイムトラベル マイクロフィルムを使ってみよう
4	大東文化大学	中村屋のボース ~インドカリーと革命~
5	山村学園短期大学	あそんでまなぶ ほいくのくうかん



図書館と県民のつどい埼玉2021記録集は <https://www.sailib.net/tudoi/> をご覧ください。

(文責：橋本 麻美)

活動報告 2021

●第34回総会

第34回総会を、通信総会形式により、以下の日程で開催した。

議題送信：6月7日、質疑提出期限：6月7～18日、質疑及び意見表明の期間：6月7～11日、意見に対する幹事会での検討及び回答期間：6月12～15日、投票期間：6月16～18日 投票結果送信：6月21日

新型コロナウイルス感染症の流行が継続していたことに鑑み、感染予防の観点から幹事会裁定に基づいた措置であった。

2020年度事業報告ののち、(1) 2020年度会計報告及び監査報告、(2) 2021年度事業計画、(2) 2021年度予算、などが協議された。

●Open Library Weeks

今年度はOPEN館として実施する機関がなかったため実施しなかった。

●研修会(2021年12月10日(金)開催)

第33回研修会を、オンライン会議システムを用いて開催した。テーマは「電子書籍について考える」。基調講演として、「電子書籍をめぐる課題と事例～KinoDen, LibrariEを中心に～」との演題で株式会社紀伊國屋書店より講演をいただいた。まず、KinoDenユーザに対して実施したアンケート集計結果を基に電子書籍をめぐる全般的な状況について紹介いただいた。そのうえで、紀伊國屋書店で提供している電子書籍のサービスの現状・事例を紹介いただき、今後大学にて導入が想定される電子教科書についても言及いただき、電子書籍の今後の展望について述べていただいた(詳細は別記事)。加盟機関からは電子書籍の導入及び利用等に関する事例として、埼玉大学図書館、文教大学付属図書館の2機関より報告いただいた。

27機関63名の参加があった。関心の高さがうかがわれるとともに、オンライン会議形式での開催により、多数の参加を得られた。

参加者に対して実施したアンケートからは、導入・提供に関する事例をもっと聞きたかった、開催形態につい

ては移動制限がかかる環境下でオンライン方式は適切であり、参加も容易であるといった好意的評価が多かった。開催形式としては、オンラインと集合形式を組み合わせたハイブリッド方式への要望も挙げられた。

●図書館と県民のつどい埼玉2021

新型コロナウイルス感染症の感染状況に鑑み、前回と同様、オンライン形式での開催となった(12/11、12、後日配信：12/20～1/10)。SALAは恒例の所蔵資料合同展示を行った(参加機関は5機関)。展示内容については別記事。

●会報発行

SALA会報第30号を3月に発行した。

●共同購入事業

物品の共同購入事業を、現在10社と取引を行っている。

●幹事会

幹事会は総会で選出された幹事館で構成し(9機関)、当会の運営にあたっている。2021年度は4回の幹事会を開催した(予定を含む)。新型コロナウイルス感染症の流行下、感染リスクを低減させる必要から、第1回は主に総会で承認された2021年度の事業計画を実施するため必要となることに関するメール審議として、第2回は研修会準備のためのオンライン会議システムを使用した会議として実施した。役割分担については当年度の事業課題を設定し、それらに対して幹事が分担して当たるという形をとっている。紙幅の都合で、分担の詳細は割愛する。

幹事会メンバーは以下のとおりである。

代表幹事館：文教大学越谷図書館、聖学院大学総合図書館(2月14日～)

幹事館：跡見学園女子大学新座図書館、国立女性教育会館・女性教育情報センター、埼玉大学図書館、十文字学園女子大学図書館、城西大学水田記念図書館、駿河台大学メディアセンター、聖学院大学総合図書館、大東文化大学60周年記念図書館

なお、会計監査は埼玉女子短期大学が担当している。

株式会社三省堂書店  
北東京営業所

〒123-0872 足立区江北7-11-8  
Tel 03-3896-7255 Fax 03-3896-6331

MARUZEN-YUSHODO  
丸善雄松堂株式会社  
時代にそくした知の提供。  
それが丸善雄松堂の最大の使命です。  
<http://yushodo.maruzen.co.jp/>

研究者・図書館・法人のお客様のためのオンラインストア

紀伊國屋書店 BookWeb Pro  
<https://pro.kinokuniya.co.jp>

紀伊國屋書店 さいたま営業所 〒330-0061 さいたま市浦和区常盤 7-3-16 シブ 5F 3F生命浦和ビル  
Tel: (048)822-0775 Fax: (048)822-0765

コミュニケーション・テクノロジー追求により、顧客ビジネスの発展に貢献する  
目的に合った支援サービスでコミュニケーションを実現します。

KWIX TOTAL SUPPORT SERVICE 教育機関支援サービス  
マニュアル支援サービス 販売促進支援サービス  
詳細クイック <http://www.kwix.co.jp>  
■本 社 〒448-0025 愛知県刈谷市幸町二丁目3番地  
電話 (0566) 24-5111(代表) FAX (0566) 26-0200  
■名古屋本部 〒456-0004 愛知県名古屋市中区稲田町19番地20号  
電話 (052) 871-9190(代表) FAX (052) 889-1410  
■東京事業部 〒102-0074 東京都千代田区九段南2-4-4 三和九段ビル3F  
電話 (03) 3221-9150(代表) FAX (03) 3221-9141

会報 第30号 2022年3月31日発行

編集：城西大学水田記念図書館 埼玉大学図書館

発行：埼玉県大学・短期大学図書館協議会 <http://www.sala.gr.jp/>

代表幹事館・事務局 〒343-8511 埼玉県越谷市南荻島3337

文教大学越谷図書館 ☎048-974-8896 FAX048-974-8040

印刷：株式会社クイックス 〒102-0074 東京都千代田区九段南 2-4-4 三和九段ビル3F

☎03-3221-9150 FAX03-3221-9141